

共催セミナー

第二世代の高強度テスラ磁気刺激装置及び マルチパルスレーザーを用いた 下半身のアンチエイジング

日時

2022年2月27日（日） 13:00～13:40

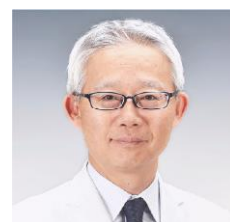
場所

万国津梁館 カフェテラス

座長

堀江 重郎 先生

順天堂大学大学院医学研究科 泌尿器外科学
教授



演者

高強度テスラ磁気刺激装置を用いた
下部尿路のアンチエイジング

小林 拓郎 先生

順天堂大学大学院医学研究科 泌尿器外科学



演者

Fotonaインティマレーザー治療
～クリニックではじめる自費診療～

皆川 真吾 先生

医療法人社団幸真会 皆川クリニック 院長



【本セミナーでご紹介されているレーザー装置及び高強度テスラ磁気刺激装置情報サイト】

- ◆インティマレーザー治療（公式HP）<https://www.fotona-smooth.com/>（日本語サイト）<https://intimalaser.jp/>
- ◆高強度テスラ磁気刺激治療（日本語情報サイト）www.facebook.com/StarformerIntimawave/

【最新医療情報・セミナーに関するお問合せ】

< Fotona日本総代理店 >

ハルテック株式会社

<https://haltek.co.jp>

< 婦人科・泌尿器代理店 >

TMKメディカル株式会社

<http://tmkmedi.jp> Tel. 052-253-7707

✉ info@tmkmedi.jp

第二世代の高強度テスラ磁気刺激装置及び マルチパルスレーザーを用いた 下半身のアンチエイジング

座長 堀江 重郎 先生 順天堂大学大学院医学研究科 泌尿器外科学 教授

1. 高強度テスラ磁気刺激装置を用いた下部尿路のアンチエイジング

演者 小林 拓郎 先生 順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学

下部尿路機能障害は加齢により増加し、特に尿失禁は生活の質を大きく低下させる。尿失禁は女性を中心に世界で2億人以上が罹患していると言われており、医療コストの面からも手術療法、薬物療法に変わる代替治療が望まれている。さらに尿失禁の診断は、その後の入院リスクの増加に関わることが報告されており、下部尿路のアンチエイジングは、健康寿命を伸ばすために重要な課題となっている。

磁気刺激療法は、磁気により発生する電流を利用し、神経や筋肉を刺激する非侵襲的な治療として、近年注目されている。泌尿器科領域では、尿道括約筋の収縮や排尿筋過活動の抑制効果から、尿失禁の治療を中心に、多くの骨盤底筋に関与する疾患の改善に効果が期待されている。しかしながら、本邦では尿失禁を伴う成人女性の過活動膀胱患者のみにしか磁気刺激療法が保険適応となっておらず、前立腺摘除後の男性患者や、その他の下部尿路障害に対する臨床的なエビデンスが乏しいのが現状である。

そこで我々の研究施設では、下部尿路機能障害患者に対して、高強度テスラ磁気刺激装置を用いて1回20-30分、週に1-2回、合計8回の治療を行なった。対象患者は治療の前後でQOL質問表及びパッド交換枚数を自己記入し、治療の効果を比較検討した。

本セミナーでは、下部尿路機能障害に対する高強度テスラ磁気刺激装置の使用経験及び有効性を検討した結果を報告する。



小林 拓郎

2016年 順天堂医院 初期研修
2018年 順天堂医院 泌尿器科
2019年 順天堂大学医学部附属練馬病院 泌尿器科
2020年 順天堂医院 泌尿器科 現在に至る

2. Fotonaインティマレーザー治療 ～クリニックではじめる自費診療～

演者 皆川 真吾 先生 医療法人社団幸真会 皆川クリニック 院長

当院は2020年9月に開院し、Fotona社製のSP Dynamisを導入した。SP Dynamisはネオジムヤグレーザー(Nd:YAG)とエルビウムヤグレーザー(Er:YAG)の2波長のレーザーを搭載する。特にEr:YAGの特殊な出力方法であるFotona SMOOTH®modeが特長で、組織の引き締めと血管新生およびコラーゲン産生効果を発揮することから、泌尿器科領域ではインティマレーザー(経膣・経尿道的照射)によって、尿失禁の減少や膣の引き締め、骨盤臓器脱の改善効果が期待できる。また、1台で美容やいびき治療、脱毛効果など多彩な領域に適応できることも利点である。保険外診療になるが、基本的に無麻酔又は塗布麻酔で施行でき、安全性が高く合併症が少ないことからクリニックでの導入に適している。

また、2021年9月より高強度テスラ磁気刺激治療機器StarFormer®Proを導入、最大2.5テスラの磁気強度で骨盤底筋の強化やneuromodulation(神経変調療法)効果を発揮し、着衣のまま1回30分座るだけで腹圧性尿失禁や過活動膀胱等に効果が期待できることが特長である。

自由診療を取り入れることは、保険診療内の既成概念にとらわれない幅広い治療方法と効果を提供することが可能になり、クリニックの独自性や他の医療機関との差別化を図ることができると考えられる。



皆川 真吾 医学博士 日本泌尿器科学会専門医・指導医

2001年 秋田大学医学部 泌尿器科
2004年 虎ノ門病院 泌尿器科
2006年 NTT東日本関東病院 泌尿器科
2009年 聖路加国際病院 泌尿器科
2012年 東京腎泌尿器センター大和病院 泌尿器科
2014年 行徳総合病院 泌尿器科
2020年 医療法人幸真会 皆川クリニックを開設 インティマレーザー(Fotona SP Dyanmis)を導入
2021年 スターフォーマープロ